山形県地域密着型サービス自己評価票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26　馴染みながらのサービス利用
　項目番号39　事業所の多機能性を活かした支援
　については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアステーション21清池（グループホーム）
（ユニット名）	美空
所在地 （県・市町村名）	山形県天童市大字清池38番地3
記入者名 （管理者）	土屋真紀子
記入日	平成　20年　12月　1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

（ ▨ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔と楽しみのあるゆったりとしたその人らしい暮らし」と「住み慣れた地域で、なじみの場所・人とふれあい・安心できる暮らし」という事業所独自の理念を職員全体で作りあげ、実現に向けて取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールや見やすい場所に理念を掲げ、毎朝呼称し常に目指す方向性を確かめ共有ながら、実践に向け、日々努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ユニット毎、出入り口やホールの見やすい場所に理念を掲げ、分かり易いようにしている。また、家族等に対しても、説明文書を作成配布し、理念の浸透を図っている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけたりしており、その都度、積極的に声かけを行い、挨拶をしている。またホーム便りを配布する際にも、ホームに遊びに来るよう積極的に声かけを実施している。更には、旬の野菜などの差し入れなどがあり良好な関係を保持している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭・お祭り・自主防災会への参加活動を利用者と共に積極的に参加しており、地域の方々も心よく受け入れていただいている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に根ざした事業所の力を発揮出来るよう職員と常に話し合いをしている。また、バックグランドを生かし、その人にあった役割、暮らしに役立つことについて常に話し合いを行い、取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員がサービス評価の目的や重要性を十分に把握し、職員全員の意見を求めて自己評価に取り組んでいる。また、評価の結果についても、改善に向けた話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。また、市や家族等にも配布し意見や要望をお聞きし、事業所の運営に反映させている。		
8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価については、明らかになった課題等について、会議で報告し、委員からの適切な助言、改善に伴う意見・要望等を出していただいている。また、無記名によるアンケート調査の結果を踏まえ改善に向けた取り組みを実施している。		
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	勉強会、研修会への積極的な参加に努めている。事業所に定期的に訪問していただく介護相談員に現状を報告し、相談等に応じていただき、適切なアドバイスを受けるなど良好な関係を築いている。		
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に対し、資料などを配布し勉強会を行い知識を身につけている。必要な方々に対しては、情報を提供し利用いただけるような体制を整えている。		
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	囲い込みによる虐待を防止するため、外部の目を多く取り入れるようにしている。必要に応じて、資料などを配布し内部研修を行い職員の意識を高めている。また、機会あるごとに外部研修にも参加している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	責任者を定めて契約時に、事業所のケアに関する考え方や、退所を含めた対応などについて十分に説明を行い理解と同意を得るようにしている。また状況の変化により、契約を解約する場合においても、家族等と十分な話し合いを行い、納得した上で、解約をしている。		
13	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者を決め、利用者の意見や不満、苦情を訴えやすい雰囲気作りをしている。また、意見や不満、苦情等が発生した場合には、速やかに話し合いの場を設けるなど、改善に向けた体制を整えている。		
14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りにて近況を報告し、個々の状況等は必要に応じて電話で様子を報告している。金銭関係については、毎月、金銭収支報告・領収書を手渡し、確認していただいている。		
15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて、家族等から意見要望等の声を頂いている。また、年1回、無記名によるアンケート調査を行い、それらを事業所に反映させている。また、意見箱を設置しているが、ほとんどない状況であり、訪問や面会時に意見や要望を聞きだせるような雰囲気作りに努めている。		
16	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、運営者と管理者の情報交換の会議を開催している。また定期的なミーテング等において、意見や要望・提案等を聞き、それを運営に反映させている。また、必要に応じて意見や要望等を聞く機会を設けている。		
17	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活状態に応じ、必要な時間に対応できる職員を配置し、これに即した、早番・日勤・遅番・夜勤の勤務体制を確保するとともに、臨機応変な対応が出来るような体制を確保している。		
18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には顔なじみの職員によるケアに心がけており、やむを得ない場合には、確実な引継ぎを行い、ダメージの防止に配慮している。また、新任者については、責任者を定め、入居者に対する紹介を丁寧に行い不安の解消に努めている。更には、ホーム便り等で紹介し、家族等にも配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・社会福祉協議会などで開催される研修会については、多くの職員が定期的に受講できるようにしている。また、研修を受けた職員が伝達訓練を兼ねて、研修報告する機会を確保している。		
20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の交換実習や、スタッフの研修には積極的に参加し、相互訪問を行いサービスの質の向上並びに職員のレベルアップに努めている。		
21	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	短時間でも職場から離れて、くつろげる場所を設けている。また、外に出てリフレッシュを図るなどストレスの軽減が出来るような体制作りに努めている。		
22	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の能力・資質・勤務態度・人間性・意欲や、利用者に対するケアの習得技術などについて、日頃から常に把握に努め、各人の持っている能力を発揮できるようにするとともに、働く意欲の高揚に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接等で、生活状況・ADL状況等を把握するように努め、本人の困っていることや、求めていることを理解することに努力し、責任者を定め、親身に相談に応じられる体制を整えている。		
24	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接等を通じて、家族が困っていること、不安なこと、求めていること十分に理解しどのようなことが対応できるかなど、責任者を定め信頼を確保するように努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時において、本人や家族の状況に応じ、何を希望しているのか、あるいは、何を思っているのかを把握し、計画作成担当者（介護支援専門員）の意見を聞き、改善などに向けた提案をし、必要なサービスにつなげるように対応している。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の仕方や、昔の風習などを教えてもらう場面を作りに配慮している。また、不安なことやうれしいこと、悲しいこと等の気持ち把握し、一緒に分かち合い支えていく関係作りをしている。		
28	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院に同行していただいたり、一緒に食事していただいている。また、行事への参加やお手伝いなどの機会を作り、共に支えている意識をもってもらえるように支援している。		
29	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際には、一緒にお茶を飲んでいただいたり、家族の方との外出の機会を作ったりしている。また、日常のの様子などを伝えたりし、より良い関係を築けるように支援している。		
30	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、今まで関わってきた方からの電話や、手紙に対し本人から電話して頂いたり、手紙を返したりし今後も長く関係が崩れないようにしている。		
31	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互い相談したり話しをする中で協力し、支え合いの場面が多々見受けられ良い関係が出来ていると思う。また支えたり協力したいが難しい方に対しては、支援・協力出来る場面作りも行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約時にも退所後の項目通り支援を続けてている。入居されていた時同様のお付き合いをさせて頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し込み・事前面接の際、生活暦を把握し、日頃の暮らし方の希望にそえるように努めている。また、日々の生活の中からも利用者の意向を探り記録化し、その情報に基づき本人の意向を生かしている。		
34	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用者との面接を行い、その人の過去の生活暦・職業暦や環境・生い立ち等を把握し、それにあったサービスを対応できるように職員全員が、その情報を共有しこれまでの暮らしを継続させ、日々積み重ねている。		
35	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	事前情報と入所後の本人の身体的・精神的状況及び有する能力などを勘案して、その人にあった暮らしが出来るようにし、カンファレンス会議等で、逐次見直しや、現状にあった暮らしが出来るよう配慮している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から出された意見や要望等をお聞きし、更に話し合いを行い、本人に合った介護計画書になるように職員全体で話し合いを行い計画書を作成している。		
37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の暮らし・行動などを記録化し、職員全体での意見交換を行い定期的に介護計画の見直しを行っている。また、介護度の変更や体調の変化等の場合については、その状況に応じて、その都度、家族との話し合い及び職員の意見などを聴取し、現状にあうように見直しを行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルに食事・入浴・排泄・バイタルなど、生活の様子や言動、職員の気づいた点などを記録化して随時、確認でくるように保管管理し、情報の共有を徹底させている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地域包括支援センターのボランティア募集のお知らせに登載していただき、積極的に受け入れている。また、心肺蘇生の講習等にも、全職員が参加し、地域資源を生かせるようにしている。		
41	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他の介護支援専門員との交流を深め、介護上のアドバイスなどを頂いたりしている。また、介護保険外のサービス（訪問理美容・移送サービスなど）を積極的に取り入れ支援している。		
42	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に訪問し、意見・要望などの情報交換を行い協力関係を築いている。また、介護相談員の定期的な訪問をいただき、利用者の相談・事業所に対する意見や要望等に応じていただいている。	〇	今後、成年後見人制度が必要とされる、対象者がいた場合には、包括支援センターと協力し、利用できるように支援していきたい。
43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関及びかかりつけ医で引き続き受けられるように家族等と協力し、通院介助したり、往診をしていただいている。新たに必要な受診をする場合には相談するなどして、希望する医療機関で受診できるよう支援できる体制を整えている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関や精神科への受診・相談等の支援を行っている。また、指示や助言をいただけるような協力体制を確保している。また受診に対しては、事前の予約や連絡をとり、訪問した際にはすぐに受診できるような支援体制を整えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の看護師が、利用者の健康管理を行い、必要に応じ協力医療機関等との情報交換を行い医療活動を支援している。また、その情報については、職員が共有できるように記録化している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	責任者を指定し、定期的に訪問を行い利用者や家族の不安を解消するため、今後の方針や状況・相談事項等の情報交換を行い、早期に退院できるように連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に対して、対応方針を定め事前面接の段階から、本人や家族からの意向を受け同意を得ている。また、かかりつけ医や協力医療機関にもその旨を伝えていると共に、重度化の方針を文書化し、それを全員、共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対する対応については、いまだ例がないが、常日頃、事業所で「出来る事、出来ないこと」の見極めについて、勉強をしている。また、協力医療機関との連携を密にしているとともに、準備のための会議などを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の習慣や環境、好みを十分に把握し、家族等との情報交換を行うと共に職員間で話し合った結果を記録化している。また、状況により、自宅訪問などを行いダメージの軽減を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人が歩んできた生活暦をとおして、常に尊敬の念を持って接している。また申し送りや、会議などの際には、戸を閉めるなど、個人情報が漏れないよう工夫している。更に、倫理綱領の中にプライバシーを尊重した対応に関した項目を盛り込み、職員の質の向上に努めている。		
51	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	質問の仕方を工夫し、返答や選択しやすいように心がけている。また、相手方に合わせ訴えに傾聴し、自己決定を促すようにしている。更に倫理綱領の中に、職員の行動基準を定め、個々の能力に合わせて段階的に指導し、質の向上を図り、事業所全体のレベルアップを目指している。		
52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を主体にし、その方のペースに配慮した支援をしている。また、各人の希望にそった一日が過ごせるよう支援し、個々に記録化している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴前の衣類交換などの準備は、できる限り本人の意向を尊重しているが、必要により見守り支援している。自己決定しがたい方々には、一緒に考えて本人の気持ちの沿った支援に努めている。また、希望に応じ訪問理美容したり、その他送迎などの支援をしている。		
54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて調理・盛り付け・後片付けなどを相談しながら行い、職員と入居者が同じテーブルで楽しく食事が出来るようにしている。		
55	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は、コーヒー・ココア・お茶・紅茶など数種類を用意し、好み　に合わせている。また、いつでも飲んでいただけるよう常に準備している。おやつなどについても、お好みを引き出し希望に添えるよう、また、喜んでもらえるよう支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	〇気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、タイミングを捉えトイレ誘導したり、日中はなるべくおむつをつけないような工夫をし、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく希望に添えるように、曜日・時間帯・回数など決め、入浴が出来るように支援している。また、菖蒲湯・入浴剤などを取り入れ季節感を出している。		
58	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の一日の生活パターンを把握記録化し、個々の生活にあった生活リズムを大切にしている。状況に応じ、軽体操や散歩・外出等を行い、快く安眠が取れるように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前に事前面接等において、その人の生活経験を把握する共に、入所後の生活パターンを観察し、その人にあった出番・役割り・楽しみごとに配意し、テレビ番組・新聞・食事の準備・洗濯の後固唾家など、職員と共にそれぞれの場面を作っている。		
60	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、自分で管理するようにさせている。出来ない人に関しては家族等の依頼に基づき事業所で管理責任を負っている。なお、出納長・領収証・レシートなど管理し、定期的に家族に支出状況を確認報告をしている。		
61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺への散歩や、希望に応じた買い物などに出かけ、買い物、市内の行事・催し物に参加、他事業所への訪問などの楽しみを満喫できるよう支援している。		
62	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	数人での外出、気の合う仲間同士、あるいは全員での外出の計画を立て、定期的に実施ている。また、家族の協力を得て、外出する機会をもうけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望がある場合は、これまでの生活の流れをたち切らないようプライバシーに配慮しながら支援している。また、封筒・便箋の購入（代筆）・電話の取次ぎについても個別に支援している。		
64	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶やお菓子などを準備し、気軽に訪問できるような雰囲気作りに全職員心がけている。また面会時間以外でも、家族の希望に応じた時間帯でも対応している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については、全職員理解しており、入居者が外出しそうな様子があれば、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、寄り添ったり、そのまま散歩に出かけたりし、安全面に配慮し、自由な暮らしが出来るよう支援している。また、各居室には施錠などはしていなく自由に訪問等が出来るようにしている。		
66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出しそうな雰囲気があれば、さりげなく声をかけたり、気が赴く方向に誘導したり、一緒に行動したりし、安全面に配意し、自由な暮らしが出来るよう支援してい。しかし、階段があり、危険が予想される場合については、階段のところを施錠する場合がありますが、家族等には事前に説明している。		
67	〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ホールにいる職員がさりげなく入居者の状況に応じて、全員の所在及び様子を把握し安全確認に配慮している。また、部屋に入ると時は、ノックすると共に挨拶をしてから入るようにしている。また、夜間については、定期的な巡視などを行ない利用者の状況把握に努めている。		
68	〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、見守りの徹底を行ない、入居者の状況に応じ保管している。また、危険なものものについては常時、スタッフの目の届く事務室などに保管し、数量をチェックするなど責任者を定めている。		
69	〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故報告書などで情報を共有し、再犯防止の徹底を図っている。予測される危険に対しては、未然に防止する対策を講じている。その他、職員間の学習会及び外部研修に参加して学んできたことを伝達訓練をかねて報告している。更には、各種事故防止マニュアルを作成している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が外部の応急手当（AED）などの講習に参加し、急変時に対応できる体制を整えている。また、緊急時のマニュアルなどを作成し周知徹底を図っている。更に、施設において消防職員による応急手当法の講習を学んでいる。		
71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、発生時に混乱しないよう常に配慮している。また地区の自主防災会の活動に積極的に参加し、協力をいただける体制を整えている。		
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時や入居後の面談の際に、日々の生活状況を報告し、起こりえるリスクを説明して対策を話し合い、少しでも不安を取り除き理解いただけるようにしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調変化については、毎日、チェックしており、小さな変化についても見逃さないように、日頃から記録化し、また、本人が何でも話せるような体制を保ち、個々の情報について共有するにしている。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師はじめ、職員一同が、利用者の薬の内容、副作用などについて把握するとともに、医師の指示に基づく服薬管理の支援を実施している。また、症状の変化等があった場合の連絡体制を確保している。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い体操や散歩等で、体を動かす機会を多く設けている。また、便秘の原因や影響などを考え、繊維質の多い食材・乳製品を取り入れた献立を工夫している。また、必要に応じ、医師との相談などをつうじ、下剤や整腸剤を処方していただき、コントロールしている。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食事終了後に歯磨きや、緑茶でうがいする等、日常的に口腔ケアに取り組んでいる。また、一人ひとりの力に応じ、見守り・声かけ・磨き残しのないよう部分的に介助し支援している。また、協力歯科医による、歯石の除去や歯磨きの指導を受け、口腔内の清潔保持に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立担当者が栄養バランスを考え、メニューを作成している。月4回のカロリー計算を実施しバランス強化に努めている。食事や水分摂取状況をチェックし、職員が利用者の状況を把握できるようにしている。また、状況に応じ寒天、ゼラチン、トロメリン等を利用し、その方が飲み易いものを作り水分摂取に努めている。		
78	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに基づき、周知徹底している。兆候が見受けられたら早急に受診し、予防・発見・治療に努めている。家族、医療機関との連携を図り、全入居者にインフルエンザ予防接種を受けている。また、予防の観点から、全職員が接種している。		
79	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理全般における衛生管理マニュアルを作成し、日々、実践している。 衛生管理に基づき、チェック表により確認し管理している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	「清池の家」の親しみ易い表札を玄関に設置したり、玄関先のプランターに季節ごとの花を植えたりしている。また、近所の方々のご好意により、地域の方々が丹精こめめた盆栽などを飾らせていただいている。		
81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	直接、日差しが当たらない様にブラインドで調整している。また、季節の花・行事や外出時における写真を飾ったりし、季節感や生活感を感じられるように工夫している。		
82	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子やテーブルを置いたり、和室には、和室用テーブル・テレビを設置し、一人で過ごしたり、仲間同士で過ごせる居場所作りに配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせ、布団かベットを選択できるようにしている。また、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、自宅と同じような雰囲気作り、写真や人形など、思い出のある品物を持ち込んでもらい、利用者の居場所について配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭気のする排水口には、定期的にパイプなどを清掃しているが、改装建築物であり、風向きや季節によってにおいが感じる場合がある。そのため、温度計などを設置し、こまめに外気を取り入れながら室温を見ながら調整を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下や変化に合わせた手すり、滑り止めを設置している。また、座る椅子、椅子の奥行きなどきめ細かく調整している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札を掲げ、更に、トイレの場所がわかり易いように表示し、混乱を防ぐなどの工夫をしている。また、認識の判断誤りを防ぐため常に整理整頓を行い、危険なものについては、目に入らないよう、手が届かないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のプランタンの花の水かけ、洗濯干し・洗濯物たたみ、日向ぼっこ、畑仕事、草取りなど利用者が活動できるように活かしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

①　日々の生活の中に、体操・歌・ゲーム等をしたり、計算パズル・塗り絵・箱折りなどの活動を取り入れ、刺激のある生活が送れるように支援している。　②　毎年、入居者の家族などに対して、無記名のアンケート調査を行い、要望や意見などをお聞きし、事業所の運営に反映させている。　③　一人一人の入居者について、職員全員が共通の認識並びに理解した中で、ケア（サポート）を行い、常に利用者に対する介護の質の向上に心がけて取り組んでいる。